The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	「研究会通信」特集について
Author(s)	湯浅, 邦弘
Citation	中国研究集刊. 2015, 61, p. 6-6
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/58632
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

「研究会通信」特集について

国内外には様々な学会がある。日本国内の中国学に関するものだけもかなりあるので、いくつかの学会の会員を兼ねている方もいらっしゃるであろう。全国的な学会が日本の学術界を牽引しているのであり、また、そうした学会で口頭発表したり、学会誌に論文が掲載されることが研究者としての登竜門になっている場合もある。ただ、組織は時を経て巨大化すると機能不全に陥り、発足当初の生新な気風が失われていくこともある。いわゆるマンネリである。

これに対して、「〇〇研究会」と称した比較的小規模な任意の団体は、目的が先鋭で、活動も旺盛、学会以上に成果をあげているところもある。そして、大きな全国規模の学会とともに、こうした様々な研究会が、実は日本の学術界を底辺で支えているのである。ただ、規模が小さく、広報活動も充分に行われていないため、その存在があまり知られていないという場合もある。

そこで、『中国研究集刊』では、こうした小さな研究会に注目し、「研究会通信」という特集を組むこととした。今回は、「懐徳堂研究会」「漢字学研究会」「楚辞学会日本分会」「中国古算書研究会」「東アジア漢学者の会」「「東アジア伝統医療文化の多角的考察」研究会」の六つの研究会を取り上げ、それぞれ以下のような内容（順不同）をご紹介いただいている。（一）会の名称、（二）活動の目的、（三）創立年、（四）会長（代表者）および主要なメンバーあるいは全メンバー、（五）主な活動状況・成果、（六）（公開している場合は）刊行物、研究誌、会報、ＨＰなど。

この特集を契機に、それぞれの研究会の活動がさらに発展していくことを願う。また、可能であれば、次号以降でも、引き続き、他の研究会の紹介に努めていきたい。

（湯浅邦弘）